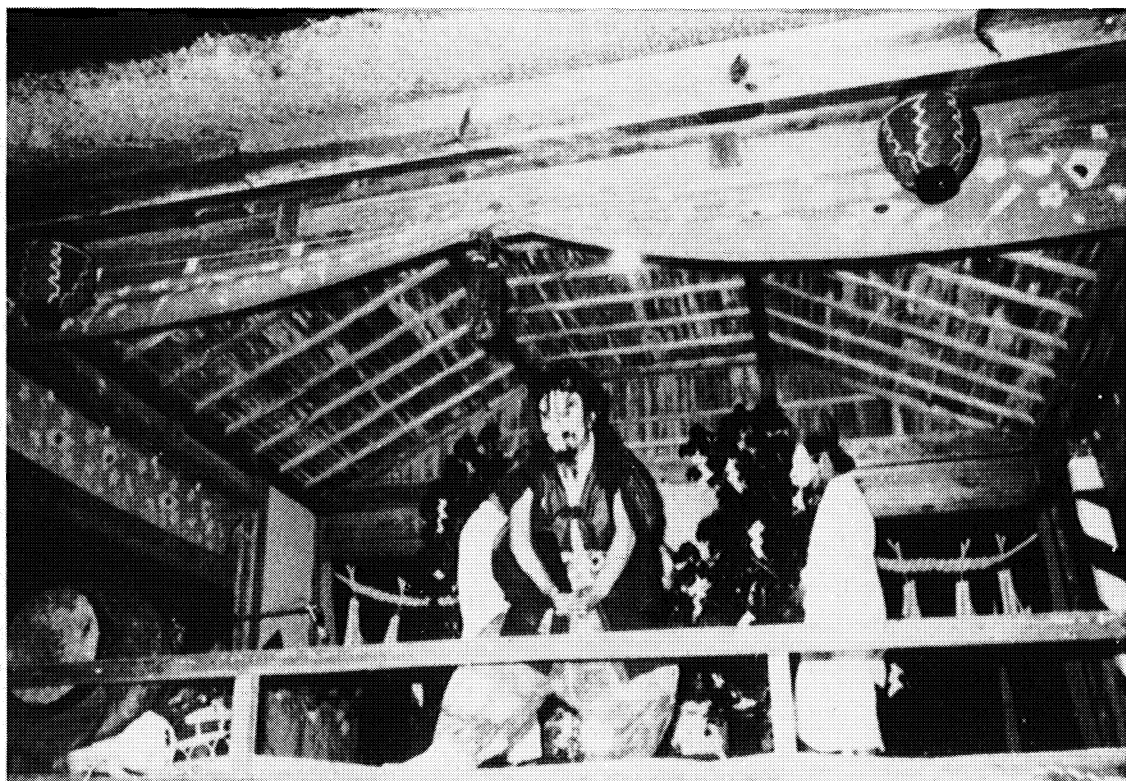


福島県指定重要無形民俗文化財

鈴石の太々神楽

二本松市鈴石町 鈴石神社内



鈴石神社の太々神楽

二本松市、鈴石神社の太々神楽は、明治維新までは、この方部の神主たちが互いに集まって演じていた出雲流の神楽であった。維新後、神主たちが集まらないようになってから、神楽は氏子の人たちによって引き継がれ、その人たちの努力により、今日まで傳承されてきた。白岩、浮島神社の太々神楽と同流のものである。もと三十六座あつたと言われているが、鈴石では今、大麻一本扇、神楽以下、二十七座を伝えている。

採物舞と能とが一つになっており、「岩戸開」に一言入るのみで、神歌も詞章も別になく、もつぱら大小太鼓、小鼓、篠笛、能管等による囃子で舞う。その囃子には、下り羽、下り羽前、舞出し、たこたんぼ、四つ拍子、七つ拍子、四つくづし、五神囃子、二段、吾妻拍子、乱声、小拍子、大和拍子、おひとつ、鎌倉、吹上等があり、これらが曲によって適宜組み合わされる。その音楽には、牧歌的な美しさがある。舞は比較的単調であるが、関東の土師流とも異なり、岩代・磐城風ともいふべき特色を備えている。

維新伝授の際、比較的しっかりしたものを伝えており、この方部の神楽の代表的なものとして価値がある。

所在地 二本松市鈴石町四一番地

鈴石神社内

保護団体 鈴石神社太々神楽保存会

代表者 会長 大内喜代美

(二本松市五月町三丁目一六六番地)